

2016年度 CSIS 共同研究

No. 700

# 東京都の駅間地区における商業立地の時系列分析

## 報告書

2016年05月

### 研究代表者

東京大学大学院工学系研究科/教授/浅見泰司

### 共同研究員

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻/大学院生/増田 広樹

### CSIS教員

浅見 泰司

平成 29 年 5 月 30 日

CSIS 共同研究報告書

No.700 東京都の駅間地区における商業立地の時系列分析

研究代表者：浅見泰司(東京大学大学院工学系研究科)

事務担当者：増田広樹(東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻)

研究内容：

本研究は、清澄白河駅周辺における、店舗立地要因の時系列分析である。研究対象地の清澄白河は、15 年ほど前に地下鉄駅が開通し、大手町から電車で約 10 分の都心に近い地域である。清澄白河駅周辺では、近年多くの個人店舗や成長期企業店舗（多くは飲食業、主にカフェ）が開店している。例えば、2010 年に数店だったカフェが、2015 年までに 25 まで自然発生的に増加している。研究目的は、「なぜここ数年で清澄白河駅周辺に商店が集まるようになったのか」を明確にすることである。調査方法は清澄白河駅周辺の店舗に対しヒアリング・アンケートを行い、清澄白河駅周辺に出店した店舗の立地理由を把握する。その後立地理由を時系列で整理し、現在に至るまでの集積経緯を把握する。最後に整理した内容を基にどのような要因が自然発生的な集積を生じさせ、現在の清澄白河の商業立地に至っているのかを分析する。期待できる研究成果として、地域活性化契機の正体明確化や、この地域の持続可能性に対して評価を行える点等がある。

平成 28 年度報告：

研究対象地の清澄白河駅周辺のここ 5 年間の住宅・土地利用の変遷を把握できた。これにより、商業集積が進行している場所や商店が撤退している場所等をおおよそ理解できた。一方で、近年開店した個人商店の多くがテレポイントデータに収録されてないことがあったため、現時点で、実地調査と並行しながら、商業地としての清澄白河駅周辺の理解を深めている。